

平成28年度障害者の芸術活動支援モデル事業の事後評価について

特定非営利活動法人 アートNPOゼロダテ

事業実施内容：障害者芸術活動支援センターの設置、協力委員会の設置

総評

- ・ 1年目ということもあるが、もう少し取組に工夫が必要である。展示事業等も既存の展覧会への参画の域を出ないように見える。
- ・ この報告書において、成果の具体例について、もっと記述があってよい。客観的な評価に欠ける報告書となってしまっている。その結果、「ゼロダテ」ならではのプログラムの成果がどのようなものであったかが、見えてこない。
- ・ 成果、課題が記されていない。
- ・ 全体的に、地域の拠点としての取組が弱かったと思う。自団体の事業活動的なイメージに感じられる。
- ・ 強みでもあり、芸術分野の方々との連携した事業（レジデンス型の事業など）他団体にはない、取り組みで工夫されていた。
- ・ 教育機関との連携をはかるプログラムは重要である。また、コミュニティーアートとして、包括的に異なった視点の活動に期待している。
- ・ 事業全体が十分な計画のもとで、実施されているとは言いがたい。県内ネットワークづくりも不十分であったと言える。報告書（事業評価票）が十分な内容のものとなっていない。

社会福祉法人 みぬま福祉会

事業実施内容：障害者芸術活動支援センターの設置、協力委員会の設置

総評

- ・ これまでの実践・実績を活かし具体的な内容で成果を県内外に広める取組は特に評価できる。ただ、取組が進んでいない事業所や団体等の状況把握や今後の取組の在り方等の課題検討もほしい。
- ・ 埼玉県内の福祉施設、事業所のネットワークTAMAP±0は1年目の実施でありながら全国のモデルとなるものである。障害者アートの当事者主体の考え方が全体の事業に反映している。
- ・ TAMAP±0の定例会が機能している点は高く評価できる。
- ・ 障害者のアート活動が活性化され、機運が高まる中で、なんのための表現活動なのか、誰のための芸術活動支援なのかをしっかりと見据え、そこを見誤るべきではないという活動は、重要で共感できる。表現活動の可能性、実現していくための取組みを時間をかけ、丁寧に行われている。
- ・ 今までの優れた実績をベースにして障害者アートのバランスがよく進められている。

社会福祉法人 みんなでいきる

事業実施内容：障害者芸術活動支援センターの設置、協力委員会の設置

総評

- ・ 南北に延びる県の地理的特性を考慮して実施体制をとっているものの、事業の実施経過の記載にとどまり成果と課題が明確にされていない。
- ・ 研修会で新潟市が入っているのであれば、（特に今回は初年度だったので）新潟市での展示会開催をもっと積極的に検討すべきだっただろう。
- ・ 相談、研修などの数値（相談数、参加数）、研修の目的、内容が分かりにくい。
- ・ この事業での地域の拠点としての役割として、人材育成はとても重要である。地域内の福祉施設との連携を深める取り組みが、あまりないように思われる。
- ・ 先進的な取り組みを参考にして、また地域の状況をよく把握して各活動を深めることが必要である。
- ・ 当初の目標に向かい、計画的に事業が実施されている。全国的なモデルとなる事業実施の観点からは不十分である。事業報告（事業後の自己評価・申告）は不十分である。実績のみならず、事業実施による全体的効果、そして解決すべき課題への考察が必要である。

社会福祉法人 八ヶ岳名水会

事業実施内容：障害者芸術活動支援センターの設置、協力委員会の設置

総評

- ・ ネットワーク形成を意識した取組を進めていて、特にモデルアトリエ「オホホ工房」の取組等は評価できる。また、協力委員を事業の中で積極的に活用している。ただ、事業の成果と課題が明確でない。
- ・ たとえば「ウェブギャラリーの開催について、発掘・調査を行っていく上での情報共有のページを作成することを検討している」とあるが、今回の採択では、「発掘・調査」は対象にはなっていない以上、目的意識を変えるべきである。参加型の展覧会をするにしても、それはあくまでも各参加団体のスキルを上げるために注力しなければならない。
- ・ 全体に、地域の「モデル」としてふるまうことに対する意識が低く感じられる。活動の内容にオリジナリティが感じられないのは、その結果でもあるだろう。
- ・ 具体的にどのような人材を創出したいのか、どのような環境づくりをしているのかが、明確ではなかったと思う。今年度の事業を通しての成果は報告されていたが、課題は明記されていない。フィードバックすることも大切である。
- ・ 山梨県では、今まで地道な活動はあるようだが、目立った活動がないのであまり知られていない。このモデル事業をきっかけに、各事業所の協力のもとに優れた作品が生まれることを願っている。
- ・ 山梨アールブリュットネットワークセンター（YAN）の立ち上げにより、ネットワークが構築されつつあると感じる。権利保護の相談、人材育成のための研修、ネットワークづくり、展示会、県との連携などの事業については計画的に行われている。

社会福祉法人 はる

事業実施内容：障害者芸術活動支援センターの設置、協力委員会の設置

総評

- ・ 相談・研修事業で「コンサルテーション」の取組を前年度より進め、県内の8事業所でアート事業の導入へとつなげている等は、特に評価できる。また、店舗への展示機会を増やす取組も今後の展開に期待したい。
- ・ 積極的な（そして人件費以外費用のほとんどかからない）発信を積極的に行っている点が高く評価できる。ベーシック／ステップアップという、プログラムの差異化もよい。「Sブリュット」という大胆な命名も、こうした活動があれば、定着するのかもしれない、期待している。
- ・ 報告書全体に、数値結果、成果、課題が明確に記載されていない。
- ・ 事業全体に言えることであるが、「何を目的に」「誰を対象にした」「どのような人材を育成する」ということが見えなかった。芸術活動を活性化していくのは、なぜなのかということのを再考し、その答えを大切にしてほしい。
- ・ 先進的な取り組みを十分参考にして、また協力を仰ぎ、地域の状況をよく把握して各活動を深めることが必要である。
- ・ 計画的な事業実施が行われている。全国的な事業実施のためのモデルとはなっていない。県内のネットワーク構築にも課題がある。

社会福祉法人 ゆうゆう

事業実施内容：障害者芸術活動支援センターの設置、協力委員会の設置、調査・発掘、評価・発信

総評

- ・ 北海道という広大な圏域に考慮した取組を進め、特に団体・事業者等との連携に成果を上げており、今後の展開につながるものと評価できる。「アートでまちおこし」の機運醸成等、次のステップにつながる取組なども期待できる。
- ・ 美術館の学芸員もうまくまきこんでいるところや、大学、行政等いくつものセクターと協働している点が高く評価できる。またフィードバック、ブラッシュアップの回路がきちんと機能している点が高く評価できる。
- ・ 広域での事業を展開されてきて、協議会を通して、北海道全域に渡るネットワークの構築を実現されてきたことは、素晴らしいと思われる。広域におけるネットワークづくりの難しさや課題も多いかもしれないが、年々、地域間の連携を深め、道内全域での事業展開の実績を上げてこられたことは、評価できる。
- ・ 地域的な困難さがありますが、この機会に持続可能なネットワークづくりの強化とそれぞれの活動の充実を図ることが必要である。
- ・ 全国のモデルとなる事業が実施されている。特に全道を射程におさめたネットワークづくりは評価すべきものとなっている。

特定非営利活動法人 エイブル・アート・ジャパン

事業実施内容：障害者芸術活動支援センターの設置、協力委員会の設置、調査・発掘、評価・発信

総評

- ・ 人材育成の研修について、内容も適切で会場を分散するなどして工夫し、県外からも受け入れて成果を上げている。展覧会事業についても会場を巡回し来場者の掘り起こしにつながっている。また、調査・発掘事業も1年目の取組で成果を出しており、次に期待できる。
- ・ 展示方法に一考の余地があると思われる。来場者数が目標に達しない理由を、広報周知の問題や、テキストが多かったことだけにもとめてはならない。来場者に本当に共感されるような展示とはどのようなものなのかを、今一度考える必要がある。場合によっては、地元のクリエイターと協働することが必要ではないということも考えられる。
- ・ 単に、障害のある人のアート活動への支援に留まらず、地方都市として、被災地として障害のある人のアート活動を地域の活性化や復興と繋げながら、活動されてきたことは、素晴らしいと思われる。障害のある人が地域の力を担えるということを多くの方に知っていただけることを期待している。
- ・ 計画の丁寧な進め方で、状況がよくわかる。さらに教育分野や障害者の美術環境を整えることにより、障害者の全体的な生活の向上につなげてほしい。
- ・ 全国のモデルとなる事業が実施されている。県内のネットワーク作りには震災後の状況も考慮して行われており、評価すべきものになっている。事業後の自己評価も成果と課題の観点から適切に整理されている。

社会福祉法人 愛成会

事業実施内容：障害者芸術活動支援センターの設置、協力委員会の設置、調査・発掘、評価・発信

総評

- ・ 権利保護に関する「ハンドブック」及び「フォーマット」は、「凡例」になりうるものと特に評価できる。また、人材育成や研修会も着実に成果をあげている。
- ・ 手薄だった多摩地区の調査を実施したことは高く評価できる。また人材育成のプログラムに安心感がある。ぜひ他の団体、施設とノウハウを共有してほしい。
- ・ モデル事業がスタートする前は、東京という大都市でありながら、障害のある人のアート活動については、地方よりも活発ではなく活動の場も少なかったところを、活性化されたと思う。この3年間で培われた人材やノウハウをもって、今後の活動に必要なことや、どんな課題があったのかを明確にし、今後の活動方針を報告いただきたかった。
- ・ 活動がまとまり、よくなってきたと思う。人口の多い東京には、多くの美術館、美術大学があります。ユニークなアイデアで面白いことができるのではないかと。
- ・ 計画的に事業は実施されている。都内全体のネットワーク作りには課題がある。事業後の自己評価については、効果も書かれているが、その内容は肯定的なものであり、課題も含めて適切に評価する必要がある。

一般財団法人 たんぽぽの家

事業実施内容：障害者芸術活動支援センターの設置、協力委員会の設置、調査・発掘、評価・発信

総評

- ・ 前年度までの成果と課題を踏まえ着実にレベルアップしていると評価できる。そして「報告書」等の成果物も適切に作成し広く配布するなど、他の地域への波及に努めている。調査・発掘成果についても、成果をデータベース化し、合わせて作品評価の手法・観点のセミナー開催等、環境整備もよくしている。
- ・ 著作権を学ぶためのゲーム開発のワークショップを開催する、施設にあわせたプログラムを提案するなど、プログラムがユニークで運営がフレキシブルになっている点は、ぜひ他の団体にもみならってほしい。
- ・ 障害のある人への創造活動に留まらず、広い視野で社会そのものを障害のある人の創作活動で変革していくという取り組みを行っている。障害のある人の作品を「評価」するということを、深く考え、そもそも何を基準とした「評価」が、障害のある人の創作活動において大切なのかを再考されていることは、素晴らしい。
- ・ 課題については丁寧に進められ成果があがっていると思う。障害者と美術を考えると、教育の問題が大きい。今ではすべての障害者が学校教育を受けている。しかし、現場では障害者の美術についてほとんどの教員が知らないのが実情である。教員養成課程に問題がある。これは、今回の課題とは関係ないと思われるかもしれないが、ベースとなる部分が変わらないと社会は変わらない。美術における鑑賞も同様である。障害者の生活向上が必要である。
- ・ 当初の目標通り計画的に行われている。県内のネットワークづくりには課題が残っている。事業後の自己評価は、実績と課題がよく整理されて、評価すべきものとなっている。

社会福祉法人 グロー

事業実施内容：障害者芸術活動支援センターの設置、協力委員会の設置、調査・発掘、評価・発信、モデル事業連携事務局の設置

総評

- ・ 取り組み3年目で事業全般にわたり着実に成果を上げていると評価できる。特に展示事業は充実しており、他の地域にとってもモデルとなるものである。また、連携事務局として報告書などの成果物の取りまとめも後続地域の参考になりうるものである。
- ・ 視覚障害者の鑑賞プログラムは高く評価できる。またオリンピック・パラリンピックの動向の積極的なリサーチも評価すべきポイントである。
- ・ 滋賀県内の事業展開に留まらず、全国事務局として、地方自治体との連携や発掘・調査における訪問でネットワークを構築されてきたこと、また、障害者施設や当事者への発信力も優れていると思います。3年間の事業展開によって、モデル事業を全国に広げる重要な役割を担い、実行されてきたことは、評価できる。
- ・ 各分野とも向上していると思います。滋賀県の公立美術館に初めてアール・ブリュットの分野が設けられるのは大きなことである。作品収集・展示のみでなく鑑賞の分野においても障害者にも開かれた鑑賞プログラムが生まれ、各美術館のモデルとなるように働きかけてほしい。アメリカにおいては、1970年代から行われている。そしてグローの活動が開かれたものであることを願っている。
- ・ 当初の目標に沿って計画的に事業が実施されている。特に、権利保護への取り組みについては評価すべきものがある。事業後の自己評価については実績報告のみで効果（アウトカム）や課題への考察が不十分である。モデル事業連携事務局の設置に関しては、全国の活動の集大成としての「芸術活動支援センターの運営マニュアル」の作成が期待される。